



中秋の名月



ちゅうしゅう めいげつ きゅうれき よる
中秋の名月とは旧暦8月15日の夜にみえる月のことである。
旧暦では秋を7月～9月としており、その中日にあたる8月15日
を中秋とした。

のぼ うつく
中秋の夜に昇る月を「中秋の月」とよび、美しくみえること
から「中秋の名月」とよばれるようになった。

へいあん じだい
中秋のお月見が広まったのは平安時代とされている。
ちゅうごく もちづき ふうしゅう きぞく しゃかい
中国の「お月見」や「望月」といった風習が日本の貴族社会に
つた うたげ もよお
伝わり、月見の宴が催されるようになった。

しよみん えど じだい
庶民の間にまでお月見の風習が広まったのは江戸時代に入って
からのことである。庶民のお月見は平安時代の貴族とは異なり、
しゅうかくさい いみ つよ ぶじ いね のうさくぶつ しゅうかく
収穫祭の意味あい強く、無事に稲や農作物を収穫できた
よろこ わ かんしゃ
喜びを分かちあい、感謝する日として広まった。



9月25日20時00分ころの空 (StellaNavigator/アストロアーツ)



☆お供え物

しんこう たいしやう
お月見をするときにお供え物をするのは月が信仰の対象でもあったからだ。
らいねん ほうさく いの しゅうかくぶつ いも まめ
収穫に感謝し、来年の豊作を祈り「お月さま」に収穫物（芋や豆）を
お供えするようになった。現在、代表的なお供え物は、月に見立てた
げんざい だいひやうてき
月見団子と神の依代とされるススキである。月見団子は米を粉にして
だんご かみ よりしろ こめ こな
丸めて作ったものが始まりと言われおり、団子の数は十五夜にちなんだ
いっばんてき
十五個が一般的であるが五個でもよいとされている。

こうき かんとう ほうぶ はじ
ススキをお供えする習慣は、江戸時代後期に関東北部から始まった。
ほんらい いなほ
本来であれば収穫物の稲穂をお供えしたいところだが、収穫前のため
か に
稲穂の代わりとして見た目が似ているススキをお供えするようになった。
さい くき まよ
供える際にはススキの茎をななめに切って魔除けとした。

☆中秋の名月の日は満月じゃない！

げんざい
今年は9月27日が満月だ。旧暦8月15日は現在のカレンダーに当てはめると
か ひやう さんしやう
年ごとに日付が変わる。（下の表を参照）
ちきゅう いち かんけい き
満月の日は地球と月の位置関係によって決まる。そのため、中秋の名月の
かなら かぎ
日が必ず満月になるとは限らないのである。

次回の観覧会

【10月5日（月）】
19：00～21：30
（最終受付 21：00）

テーマ
「土星」

	旧暦8月15日	満月日
2026年	9月25日	9月27日
2027年	9月15日	9月16日
2028年	10月 3日	10月 4日